Coqと大規模言語モデルによる定理証明

鈴木彩加

明治大学 理工学研究科 数学専攻 M2

October 31, 2023

定理証明支援系

定理証明支援系 (Proof Assistant) とは、コンピュータを用いて「形式化」を行い、その検証 1 を行うためのソフトウェアである. [4] ステップバイステップでコンピュータに命令を送り、数学の定理を証明するのを助けるシステムである. [5] Coq, AutoMath, Lean, Isabelle など様々な定理証明支援系がある. 今回は Cog を扱う.

¹コンピュータによって漏れや間違いがなく証明の確認ができる.

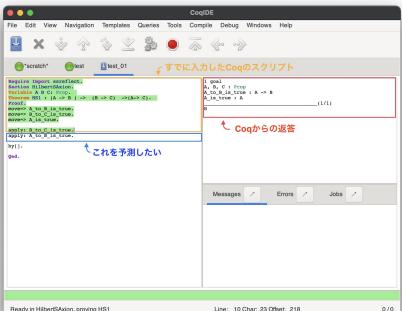
- 1 アイデア
- 2 データセット
- 3 学習方法 LLM モデル 追加学習方法 データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

アイデア

数学の定理を機械に証明させたい.

定理証明支援系で人間が与えるヒントもコンピュータ上の言語で 書かれている.

Coq からの検証結果を見れば次に与えたいヒントも機械が予測できるのではないか.



大規模言語モデル

大規模言語モデル (LLM) とは、深層学習モデルの一種である。テキストデータを中心とした大規模なデータセットを学習している。 従来の自然言語モデルと比べ、人間に近い会話が可能であり、自然言語を用いたさまざまな処理を行うことができる。

例: ChatGPT, Bing, · · ·



Figure: ChatGPT





差分がない場合には、`diff`コマンドの出力を確認し、差分が存在するかどうかを判断す



ることができます。以下に、そのよっな場合に差分ファイルを出力しない万法を示しま

javascript

Copy code

diff ファイル1 ファイル2 > 差分ファイル 2>/dev/null && [-s 差分ファイル] && cat 差分フ

上記のコマンドでは、まず'diff'コマンドの出力を'**差分ファイル**'にリダイレクトし、エラー メッセージを/dev/nullに捨てます('22/dev/null')。次に、'【-s 差分ファイル 】を使用 して、差分ファイルが存在し、そのサイズがゼロでないことを確認します。最後に、'cat' コマンドを使用して美分ファイルの内容を表示します。

このコマンドは、差分が存在しない場合には何も出力せず、差分がある場合には差分ファイルの内容を表示します。

385 chars / 23 words

Conv

Figure: ChatGPT

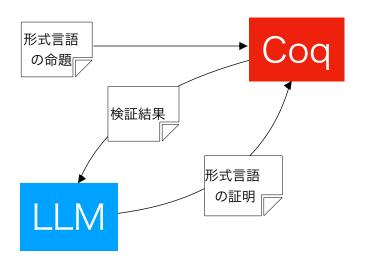
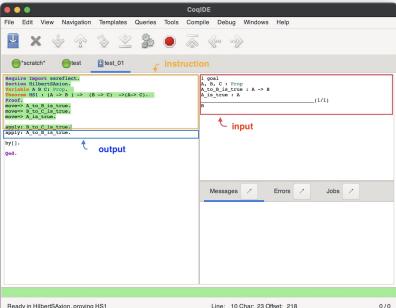


Figure: やり取りのイメージ図

- 1 アイデア
- 2 データセット
- 学習方法 LLM モデル 追加学習方法 データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

Alpaca 形式の Dataset [1]

```
{ "instruction": モデルが実行するタスクを説明する,
"input": タスクのオプションのコンテキストまたは入力,
"output": instruction に対する応答
}
例:
{ "instruction": "次の記事を要約してください",
"input": "記事の本文",
"output": "記事の要約文"
}
```



現在作成したデータセット

theories ファイルセット 2 から作成. (84723 個)

- Coq プログラム(拡張子 v) ファイルの n 行目までを Coqtop で実行する。
- show. を最後に実行して返答があったもののみデータセットとして使用する.
 - show. を最後に実行して返ってきた返答は CoqIDE 上のゴールエリアに表示されるものであり、現在の仮定とゴールである.
- n 行目までを"instruction", show. を実行して返ってきた返答を"input", n+1行目を"output"とする.
 つまり、今まで出した命令を"instruction", 現在の仮定とゴールを"input" 次に出す命令を"output" として情報を与える.

²Cog に標準で入っている理論ライブラリ

- 1 アイデア
- 2 データセット
- 3 学習方法 LLM モデル 追加学習方法 データセット
- 4 検証方法
- 6 問題点
- 6 今後

- 1 アイデア
- 2 データセット
- 3 学習方法LLM モデル追加学習方法データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

- 多言語対応したモデル 様々な人がモデル作成に取り組んでいるため精度が高いモデ ルが多くある。
 - 多言語対応しているため必要のない情報に情報量が割かれて しまっている.
- コードに特化したモデル プログラミング言語に特化したモデルであり、一番多いもの は Python のスクリプトの精度を高めたものである。 Python, C++, Java, PHP, Typescript(Javascript), C#, Bash などの 言語をサポートしているものがある。

例: Code Llama, WizardCoder-Python-13B-V1.0

数学特化の言語モデル 例: WizardMath

- 1 アイデア
- 2 データセット
- 3 学習方法LLM モデル追加学習方法データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

LoRA[2]

LoRA (Low-Rank Adaptation) とは、学習にかかる計算コストを抑えつつ、かつ推論時の速度を Fine Tuning した場合と同等に保つことが出来る学習方法である.

LLM の事前学習から変更されていない状態の重みを $W_0 \in R^{d \times k}$ とする.LLM を Fine Tuning して変更した層の差分を ΔW とする.LoRA はこの ΔW を比較的小さなサイズの行列 A と B の積 BA で学習する.

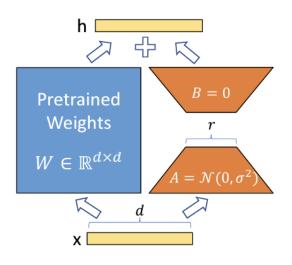


Figure: LoRA[3] の概要図

学習方法

- Fine Tuning
- LoRA

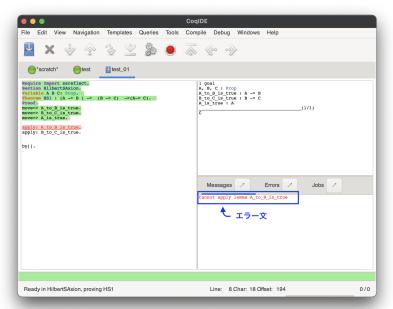
- 1 アイデア
- 2 データセット
- 3 学習方法LLM モデル追加学習方法データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

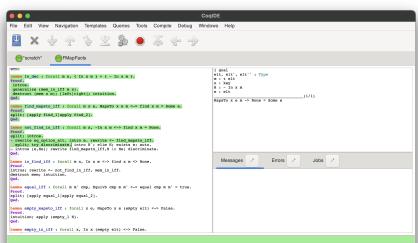
現在作成したデータセット

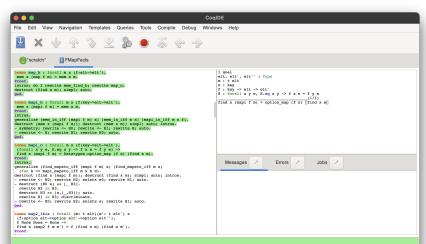
theories ファイルセット³から作成. (84723 個)

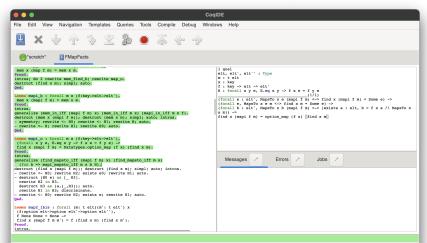
- Coq プログラム(拡張子 v) ファイルの n 行目までを Coqtop で実行する。
- show. を最後に実行して返答があったもののみデータセットとして使用する.
 - show. を最後に実行して返ってきた返答は CoqIDE 上のゴールエリアに表示されるものであり、現在の仮定とゴールである.
- n 行目までを"instruction", show. を実行して返ってきた返答を"input", n+1行目を"output"とする.
 つまり、今まで出した命令を"instruction", 現在の仮定とゴールを"input" 次に出す命令を"output" として情報を与える.

³Cog に標準で入っている理論ライブラリ





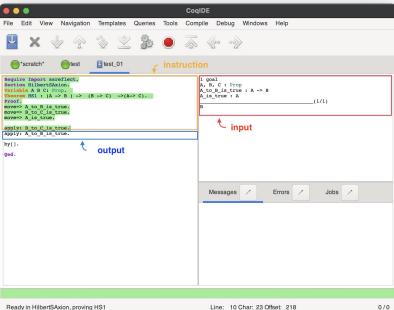




- 1 アイデア
- 2 データセット
- 学習方法 LLM モデル 追加学習方法 データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

簡単な定理の証明について証明できるか検証する.

- 次の tactic 候補複数を LLM に提示してどれが一番良いか予測 させる。
- LLM に次の tactic を予測させる.



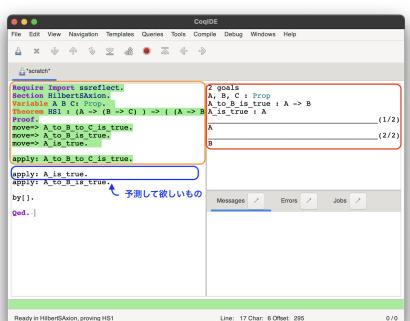
次の tactic 候補複数を提示してどれが一番良いか予測させる.

- 1 apply: A_to_B_is_true.
- by[].
- 3 apply: A_is_true.

LLM に次の tactic を予測させる. tactic がエラーが出ずに証明が進めば正解とする. 可能であれば、最適な tactic を選べているか評価したい. (証明終了までに必要な tactic が少ない tactic が予測出来ればスコアを高く

する等)

- 1 アイデア
- 2 データセット
- 3 学習方法 LLM モデル 追加学習方法 データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後



```
### output: 3 goals  
> HS1: (A -> (B -> C)) -> ((A -> B) -> (A -> C)).  
> A_to_B_to_C_is_true: (A -> (B -> C)) -> ((A -> B) -> (A -> C).  
> A_to_B_is_true: A -> B.  
> A is true: A.
```

- 1 アイデア
- 2 データセット
- 学習方法 LLM モデル 追加学習方法 データセット
- 4 検証方法
- 5 問題点
- 6 今後

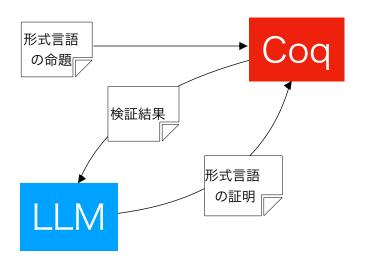


Figure: やり取りのイメージ図

Coq と LLM で交互にやり取りをさせて定理証明できるか検証したい.

Coq からの検証結果だけでなくエラー文も含めて LLM がよりよい tactic 候補を出せるようにする.

参考文献 |

- [1] Alpaca dataset, 2023. https://huggingface.co/datasets/tatsu-lab/alpaca.
- [2] Llm をカスタマイズする方法として lora について調べてみました。, 2023. https://techblog.cccmk.co.jp/entry/2023/06/20/154850.
- [3] Lora: Low-rank adaptation of large language models, 2023. https://arxiv.org/abs/2106.09685.

参考文献 ||

- [4] 久我健一. 証明支援系を用いたトポロジーの形式化について, 2015.
- [5] 萩原 学 and Reynald Affeldt. Coq/ssreflect/mathcomp による定理証明, 2018.

終わり